

日本百將傳一夕話

三

13  
3566  
3





門 13  
號 3566  
卷 3



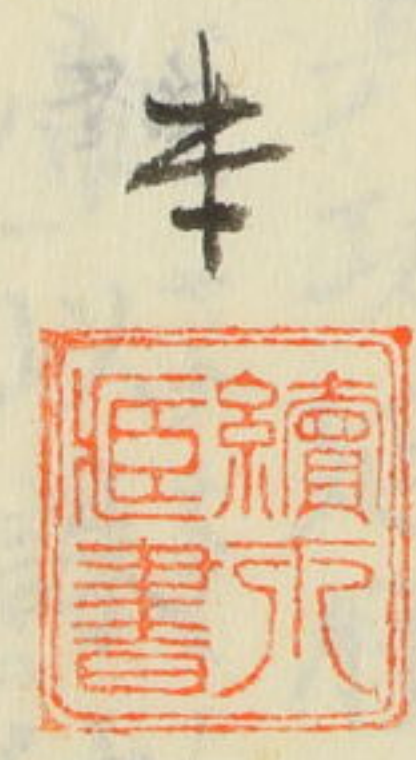
將傳一夕話卷之三

東都

松亭金水謹撰

目錄

- 坂上田村麻呂
- 文室綿麻呂
- 藤原利仁
- 藤原忠文
- 平貞盛
- 藤原秀郷
- 小野好古



百將傳一夕話卷之三

祥玉堂藏板

早稲田大學圖書館  
昭 34.6.3 雙  
藏 書



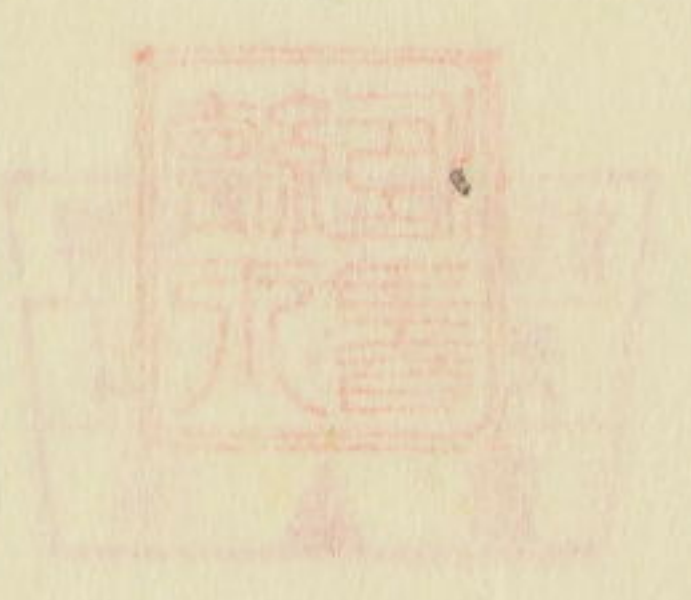
源經基  
橘遠保  
源滿仲

以上十將目錄終

源經基  
橘遠保  
源滿仲  
坂上田村麻呂

東條

外傳金水齋



日本書紀卷之三



左京大夫前田  
麻呂の子  
田村麻呂の子  
坂上淨野と云ふ  
家風と承嗣武  
藝絶倫と云ふ  
の初陸奥出羽按  
察使とあり任  
在に數年國內  
大小服と蝦夷其  
徳小化を

### 坂上田村麻呂

人皇平代嵯峨帝弘仁三年卒  
今嘉永六丑延千四十三年成

坂上田村麻呂者爲征夷將軍攻  
擊蝦夷屢有其功延曆大同之  
時也且仕弘仁帝以誅仲成

田村麻呂の身丈五尺八寸。精力あり目ハ鷹隼の如く。舞ハ金縷の如し。平  
希之治。美まじき老幼。根と仰も。首と怒。一魚。歎。憎。恨。依。事。有。人  
身と重くせんとする。時二百一打。み。ぬ。程。せん。と。す。ば。六。十四。斤。公。の。欲。する。不。成。ん。事。

百將傳二話卷之三

〇一

羊玉堂藏反









田村麻呂  
兵を放て  
平城上皇

拒む

坂上田村丸

百将傳

三〇

羊王堂藏板



百將傳

君王堂藏板



史より夷賊心腹せむ動す。其黨と後比撥乱屢ありけし。この逆をの法士こそ。成法  
 めていま。希度使の下向あり。比勢小桓武の御宇。延暦七年。大少強授ふ及ぶ。つて  
 参後中衛大将紀吉佐矣と。征東約軍とあり。蝦夷と征する。この人。諸軍屢利と  
 色。失のひ。是と。征伐する。能く。因て。未年。二月。と。限。坂東。法冬。の兵。五万。八百。勝。多  
 賀。城。小。倉。氏。に。さ。由。命。せ。し。は。か。つ。て。翌。八。年。件。の。軍。兵。陸。奥。多。賀。城。小。倉。氏。十。副。將  
 軍。廣。成。中。軍。別。將。池。田。真。牧。前。軍。別。將。安。倍。墨。繩。等。軍。議。と。定。め。て。衣。川。と。度。城。  
 と。取。手。と。急。急。あり。城。僅。小。二。百。人。防。ぎ。難。て。大。小。退。く。宿。軍。得。り。と。こ。と。と。遂。之。  
 巢。伏。村。小。到。り。前。後。の。軍。勢。と。合。せ。ん。と。以。時。小。夷。賊。八。百。餘。人。東。山。より。出。て。後  
 と。難。ひ。逃。る。賊。等。取。て。返。し。命。と。持。て。競。ひ。免。る。官。軍。前。後。小。敵。と。り。て。進。退  
 あり。谷。ま。り。り。奮。而。擊。手。突。戰。秘。湖。と。揚。せ。ど。拒。ぎ。殺。を。能。ひ。比。高。田。道。成。會。津。社  
 麻。呂。大。伴。五。百。餘。等。を。戰。死。し。その。餘。の。軍。兵。式。ひ。討。し。川。小。淵。に。巖。小。礮。り。れ。死

する者。千餘人。傷と被る。の。二千。餘。人。城。等。が。首。と。獲。る。と。の。僅。小。八。十。餘。級。と。ぞ。  
 小。於。て。將。軍。別。將。と。一。條。の。血。路。と。用。さ。遠。く。み。ら。と。適。と。て。連。小。敵。系。り。け  
 ます。帝。大。の。逆。鱗。あ。つ。て。之。懈。と。乳。さ。る。小。將。軍。古。依。美。ハ。其。罪。あり。と。宥。免。と  
 加。へ。ら。と。真。牧。墨。繩。が。官。と。解。く。と。程。小。被。賊。仇。等。今。の。怒。り。去。り。あ。く。近。と。探  
 奪。と。威。勢。極。小。震。ひ。る。因。て。延。暦。十。一。年。或。ひ。十。年。大。伴。等。麻。呂。百。餘。後。比。丹。治。比。淡  
 成。坂。上。田。村。麻。呂。位。下。巨。勢。野。足。等。と。大。使。副。使。孫。守。將。軍。等。の。職。小。命。ト。遠。く。奥。及。入  
 下。さ。る。比。中。田。村。麻。呂。の。武。勇。謀。略。衆。小。却。て。威。威。と。く。炳。然。と。と。比。賊。等。大。小。反。服。し。  
 忽。地。平。定。小。及。び。り。其。由。と。奏。寫。り。明。年。京。師。へ。凱。旋。と。さ。り。の。別。故。年。と。起。火。小  
 平。定。小。臻。と。偏。小。田。村。九。ヶ。功。小。よ。と。と。威。名。字。く。ぞ。傳。え。る。  
 按。る。小。田。村。麻。呂。夷。賊。と。討。ま。る。と。其。年。序。法。書。異。同。あり。て。定。ま。る。ふ。比。と。あ。の。十  
 年。と。又。十。一。年。と。帝。王。略。記。小。十。四。年。と。比。い。ま。と。孰。く。是。あり。と。と。比。然。れ。む。本。朝



通紀延暦十六年冬十一月。從四位下坂上田村麻呂與以下治の軍勢小佐佐木  
大將軍小佐佐木とて、十四年の方是るらん

かくて同十七年。坂上田村麻呂得倉小出らるるが東山小出つて一の草菴あり將軍  
皆くこふ憇して菴をこし物宿る時小菴を謂ていふ多道の釋延法とて報恩法師の  
侍者あり然るに或夜陽後のとあり。流河と河をこす支流と視るに金色の光あり  
則その水源と窺ひ洩ると牧所あり滝の下小出りけり。さ小一人の老翁あり。不測小出  
てその年とてその名と同小菴答て吾の行唐とのあり。さ小佐と二百餘千手千眼の  
神呪と持て汝と侍と年久し。然るに脱小出るに吾東行の想ひありとて汝と遺ね  
いふも果さば今より汝と小佐と吾と侍とて一とてさる材とて千手の像と刻  
せんと小佐の像と刻せんと連るべし汝と小佐ととて化の二寺と建て安置ます。と言畢んて  
退ぬまらる牧所の月日と終り。行唐の像とまざるより一日身終て峯小出るに飛ら

履のこ在りて。推りえ飯を熟め小出は必千手大士の應給るると教ひり。さ小佐は不  
目小佐の像と刻まんと欲ますとて。元末次第財のあり小出の思ひも然止り。とてか  
て因村麻呂の頻て小佐とて感嘆り。像と刻む資材と地ち且自宅と此処小佐  
を一字の林利と建まらるる像と置て清水寺と號し。因村麻呂の強曲あり大同二年  
の草創小出因村麻呂が願くとして。然るに法書の起り延暦十七年小佐は是今  
の清水あり。滝の音羽の滝あり。かくて後行二十年。さ小佐の城位終り。その前長  
高九及び惡路王と核するに勇悍雲双の鳥游の者少。奥羽の人民と從へ懐け。その  
勢い強大あり。頼りて帝都と號しんと。数万の軍兵と率ひて武秀相模と押登り。後河の  
ある清水が宮まらる。ち考るとはえり。さ小佐大佐はさ小佐の則將軍田村麻呂小佐  
代とてさ小佐命せらる。將軍速小領掌あり。脱小佐とて做らる。熟美賊のやうと  
探る。渠等の願る勇猛のこは幻術とて人の眼と眩味まらる。さ小佐の故















平城の官へ遷りて。皇子親み見へ亡びつ。皇子も安撫せしむ。
 皇子親み見へ亡びつ。皇子も安撫せしむ。
 皇子親み見へ亡びつ。皇子も安撫せしむ。
 皇子親み見へ亡びつ。皇子も安撫せしむ。
 皇子親み見へ亡びつ。皇子も安撫せしむ。
 皇子親み見へ亡びつ。皇子も安撫せしむ。
 皇子親み見へ亡びつ。皇子も安撫せしむ。
 皇子親み見へ亡びつ。皇子も安撫せしむ。
 皇子親み見へ亡びつ。皇子も安撫せしむ。
 皇子親み見へ亡びつ。皇子も安撫せしむ。

田村麻呂の圖賛小いなり  
 委任 柵外機密爰整其旅東征薄伐以斥蝦狄旋奏  
 奥羽清平

文室綿麻呂

今皇平夜淳和帝の時卒年未詳  
 今嘉永六丑追九十三年成

文室綿麻呂者 弘仁時副田村

討藤原仲成其後拜將軍征東

夷歸京為羽林大將軍

職原抄と案ずるに尤右近衛府と羽林とあり前漢武帝大初元年  
 建章嘗騎と名け後小羽林騎と更む。さき小羽林は右近衛の廢  
 名とす。また右の大將と廢名羽林大將軍と廢書は尤右羽林大將軍  
 一人正三品右軍各三人とす。今本初左右大將の相愛は位とす。

天武天皇の皇子  
 長親王の二子文屋  
 淨三が子綿麻呂  
 初め諸王の  
 御史大夫兼神祇  
 伯從二位に至る  
 孝謙上皇出崩の  
 儲位に定らる  
 下道眞備も淨三  
 とす。入心淨三固  
 く辭して逃さず



文室綿麻呂の語

弘仁二年田村麻呂薨す。及びて。奥の末。賊復奪す。屢發投。及びて。法卿會談あり。尙小。上皇。以。孫。叛。の。こと。詔。命。と。稟。て。功。と。彰。り。其。後。世。上。恭。平。お。よ。武。伎。の。ひ。才。を。兆。あり。と。則。心。夫。將。軍。を。補。せ。と。陸。奥。の。み。向。り。あり。綿。麻。呂。迷。ふ。願。兼。あり。形。の。ゆ。く。軍。兵。と。怒。へ。日。あ。り。進。發。せ。と。り。る。ぐ。倒。の。蝦。夷。が。勇。猛。あり。官。軍。利。を。失。ふ。と。同。く。あり。と。い。へ。ど。も。綿。麻。呂。少。も。こ。ま。小。屋。せ。び。膽。沃。の。城。を。捕。虜。せ。て。夜。を。應。下。城。を。燒。と。孫。長。が。兵。界。と。方。す。小。置。と。詔。を。以。て。人。を。懼。け。に。と。以。て。士。卒。と。屯。一。勇。威。と。震。ひ。て。戦。ひ。一。く。る。得。夫。賊。の。猛。る。こと。も。故。が。く。て。是。を。服。一。不。平。定。お。よ。び。ける。その。戦。ひ。の。容。と。精。く。説。ん。ふ。尙。小。田。村。が。關。我。小。孫。と。似。と。い。へ。ば。敢。て。發。せ。び。

大政大臣房前公の五男正二位左大臣魚名公六世の孫あり又て時長とのみ

藤原利仁

今皇代醍醐帝の時の人卒年未詳

藤原利仁者 延喜之世率兵討

奥賊風雪之夜乘敵無備襲擊

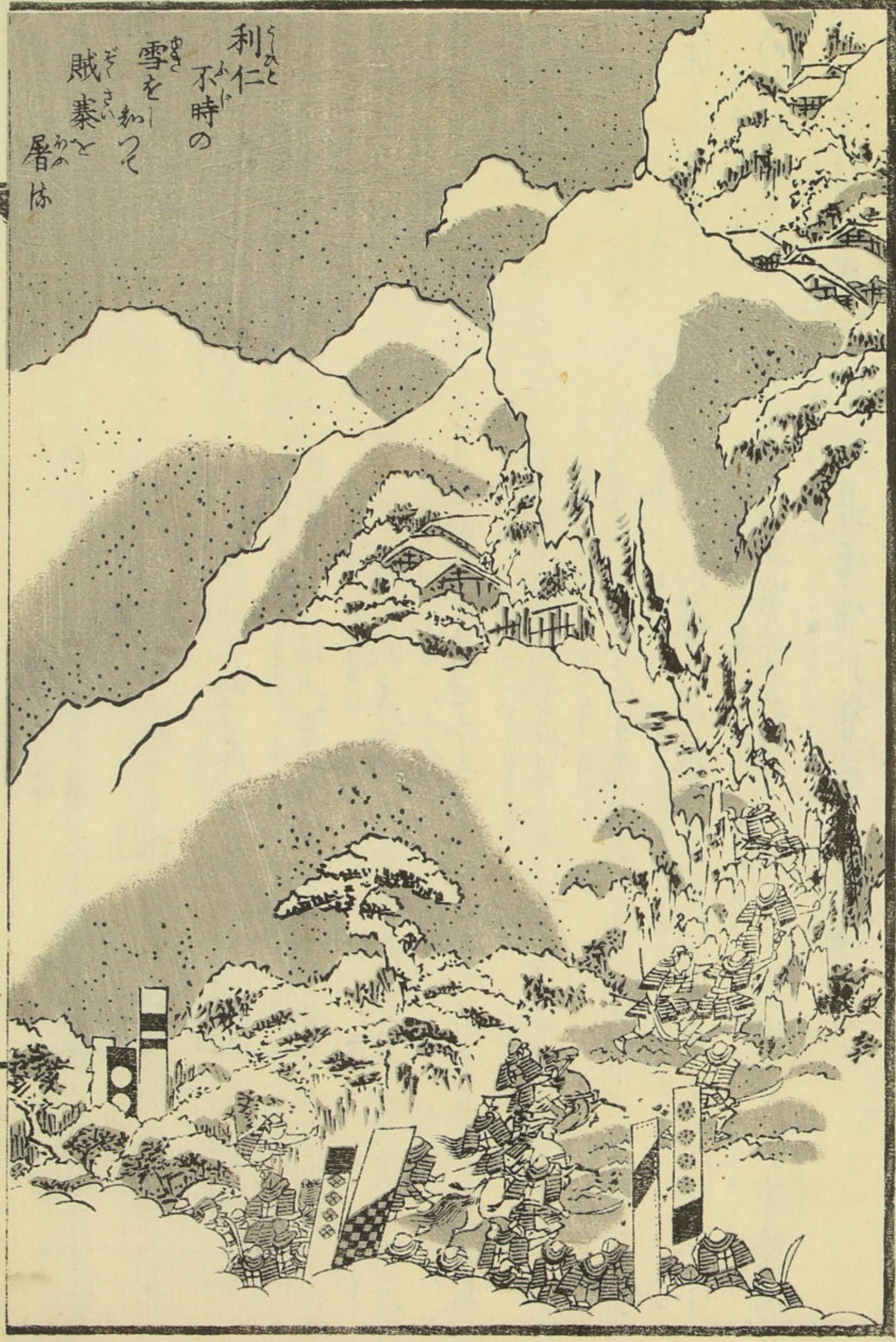
平之

利仁越前の敦賀に在後之一年系師より五位あり人と伴ひ茅渚を食せん之在所へ往けりこれ系中少頭之胤とす。利仁遂らて捕へ汝ハ神通の者あり今宵我をゆた明日己の討頭馬二疋を食物とりて從者若小逢ひ来ると云せといひけし六瓶送て之を果之野朝桃のゆく還来ると云ふ風款は之を活拾送おつる



藤原利仁の事

利仁の沉勇ありて殊異あり。延喜十二年不逞つて中野國高坐山に栖む。幼少よりその張本二人夜に藏宗藏安より渠等驍勇を双み入敷まらり。その愛不於て近き近郷の漁者と集り。在り所を押し入て資材雜具と掠奪し。彼嶺に山寨を據え。往來の人と劫侵を。黄金衣服を奪ひし。中にも拒むるのあれば。是と殺して。手足を異に。因て民皆大に怖る。是後ふの日に。不倍し。その黨千餘人。ふおよび其威を。強猛に。今の官物と奪ひ。彌賁と掠む。朝廷と。このこと。寫し。佐守府。將軍。利仁の世。不逞え。る。良智の物あり。則。詔を。下し。あひ。征伐。を。と。さ。う。勅命。あり。是。不。服。に。利。仁。の。法。外。の。軍。兵。と。催。使。し。其。勢。弱。合。二。千。餘。將。自。中。軍。不。物。と。し。て。中。野。山。へ。登。向。を。ま。の。内。既。五。月。下。旬。吳。氣。烈。と。て。官。軍。皆。大。に。炎。熱。不。苦。し。め。り。是。る。不。利。仁。滅。寨。あり。高。坐。山。の。林。原。不。



利仁  
不時の  
雪を  
あつて  
賊寨  
屠は





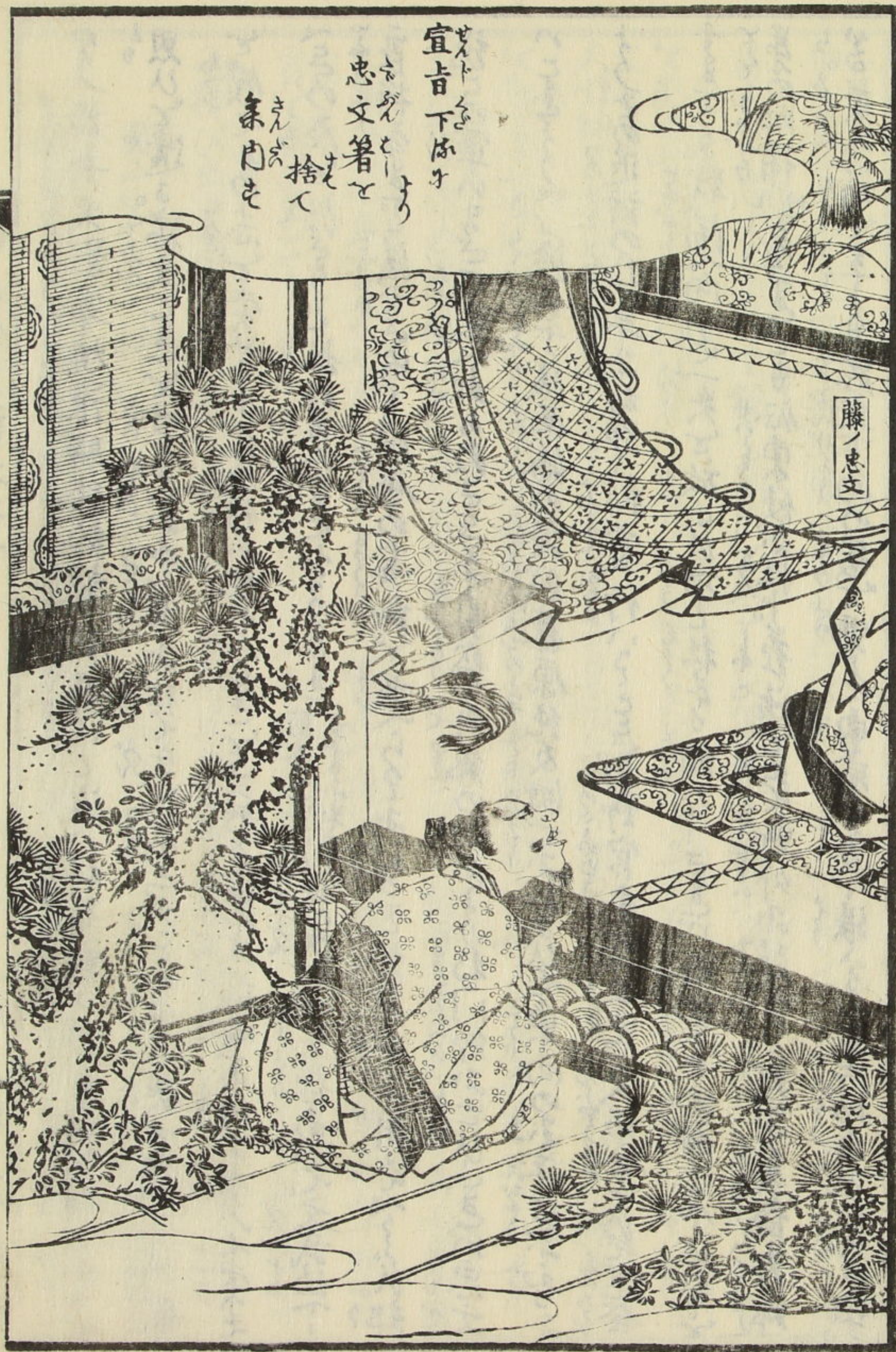


藤原忠文の語

夫の志操豪邁忠直なること前の獨者より至る。然るに朱雀天皇の天慶六年、  
つて東の平将門南海の藤原純友礼を起して、近江を據奪せしむ。  
其後進頻るに公卿會議ありて、追捕使を定め、從四位上忠舒と東  
海道從五位上小野維幹と東山道左近衛少將小野好古と山陽道參  
議藤原忠文と以て、征東大將軍を拜し、あつて其任よりて進發あり、然  
し忠文は詔命下りしに、食をとりて居らざるが、是を以て一椀炊  
命ひ終らば、若と投て死に參り、則ち節刀を受て、その家小の代に、  
ち小登まとのみ、その器量拔群あり、常人のうら及ぶ所あり、後世におよび  
豫念頼家將軍のとき、越後鳥坂の味小於て、城小太郎資盛、孫友以のめ小まり  
依て本盛、徳小進討使と命せざる、盛徳堂下門前小庭家とありけるが、その

命と實と等しく、甲冑雜具の途より持来と、吾軍將ありて赴くべしと云、捨てよ  
佐小馬小智て馳出、即ち頼小準備と怒へ、端々逃るる。と忠文が志操と  
思ひて、七小祖、怒りて、その赴き大小等し、然るに或人ことと評し、盛徳願は  
廉勿小似たり。敵小對あり、軍旅と怒へ、且より其謀計を定め、答を乞ふ、思慮あり  
く、直小出、如何小といふ、後念より、越後ま毛、その行程、進み、其後、謀計、その間  
小定む、とも、逢ふ、兵器、のたふ、備へ、不意あり、とも、復頼あり、首へ、う、の、微  
妙あり、む、と、忠文の、征東使、とて、國の、東向、い、さ、ら、が、將門の、猛威、熾、あり、法  
ま、あ、り、以、て、あ、る、よ、う、に、後、の、軍、勢、怖、ま、と、做、り、到、着、大、小、延、引、以、因、て、後、海、の、小、法、見  
が、固、ま、る、ち、對、ひ、は、精、軍、勢、の、ま、と、後、に、誓、ひ、の、外、小、行、備、せ、り、と、あ、く、さ、る、風、流、の  
海、道、一、の、勝、地、也、海、小、原、と、小、對、し、在、活、小、同、る、と、れ、案、を、さ、る、心、あ、る、も、心、を、死、も、死  
致、と、を、さ、る、考、あり、時、小、軍、監、法、原、隆、俊、風、流、寛、雅、の、名、士、あり、が、その、風景、と、ち、え





西野傳

〇十四

洋



井

君







北一説云住吉明神與宇治橋守神通云

又云兼平年中云諸將以功封賞獨忠文依藤實賴公之訴而不預

焉藤師輔屢言曰帝不聽忠文怒而憂死其靈乃宇治離宮明神

也 といふと云ふ所の説の因て来るといふと齋一和漢三才國舎宇治離宮

の條小奈神藤原忠文之具と云ふ人神傳俗説の類を載せり但し其説

ある所の説未審とのひ卒年相違のことと論す何為有恨乎近年疫癘

流行百姓大死衆故附會以為忠文之宗矣といへり

同書小離宮と稱する所の後冷泉院宇治行幸のとき離宮と當社の境

内小宮むそとより以来と云ふと離宮と稱し神階を加ふるも此の條ありと

記し又橋形社の條あり前文住吉神云とのこと載る所の條の事誤り云

と云ふ益小似と云ふと日童蒙参考の便覽小使ふ

桓武天皇

葛原親王

高見王

平高望

寛平五年五月

始賜平姓

貞盛

# 平貞盛

人皇十六代 朱雀帝の時入將門誅伐す  
今嘉永六丑丑迄九百十四年成

平貞盛者

朱雀帝之

御宇進兵

與平將門相戰

放矢殪之

以誅朝

敵以復父讎

貞盛秀卿合體して將門と戦ふの勢一万余と云ふは門是と云ふ計は怪  
夜討するに兩將防ぎ然るに博不意不出て殺す小討るに終つ貞盛が妻  
擒とありらる。将門はてことと辱むるに下知れど日及を兵軍士を殺され  
らる。将門貞盛が妻小衣被と云ふて入るを免れ同のくより小衣を被る  
と云ふ所のやどりて一首の字を文返し巻り乃と今昔物語ありと云ふ













維  
 衡  
 判官代  
 射  
 命  
 救  
 夫

左衛門尉維衡

百将傳二卷之三

〇十九

群玉堂藏板



百将傳二卷之三

群玉堂藏板



と思ひ射りし。不宣計らんや判官代を医師の疾に逝まらう。このひげは白く貞盛の  
 遺骸とわかれひらぐ。その傍に止けること思按むるも一挙皆破の虚言あらず。  
 貞盛が死なざる言傳ふ絶さるひらぐ。因を以て攻めし。唐山紫河車と云ふ葉  
 あり。こゝに初生の男児の胎衣を竊きて葉を合し。後すけの陽道と壯むするの功を  
 とて、隠岐を暮らしてこそと索む。但し胎衣を把きし小児は多く生育を秘し。是  
 小園の産家にて防ぐと貴重之。謝降制とてとてとて大お非まり。況や其  
 母子を殺しと身の瘡と云ふ。不仁不義の云ふ。こゝに秋貞不徳なるあり。然もど由も  
 六の人或僧の許し宿す。械あつて僧房に乱入する。その死を紛き悉く誅伐して  
 僧を救ひし。善行ともいふ。こゝに強あひ強むる。依傍藤太の身。是も亦  
 法書不委ま。今こそ何ぞ贅言まき。但し秀郷をりて名を秘せんと。秘せんも亦  
 未だ脱し。脱し門を番と。秘手まより東に不威と揮ひて。破竹の威勢ある。及次秀郷

性て面濁し。その器量と誠と。倘人君の容貌あつて。ともし不屬せんと思ひける。  
 将門の武名。世に隠し。秀郷が。防とて。笑て梳さる。髪をゆり。理め  
 出迎ひ。俱に食とす。及次叙進。散ん。袴み。か。ち。捨。ふ。は。怪。怒。る。は。  
 と。入。君。の。器。あ。は。び。と。貞。盛。小。合。體。一。竟。小。將。門。と。擊。と。の。人。の。奉。一。向。言。得。が。  
 一。卒。去。の。漢。と。王。后。と。將。門。と。や。人。君。の。器。あ。り。と。日。一。天。の。君。小。叛。と。て。渠。小。共。せん。  
 是。戴。心。あり。て。自然。逆。小。黨。なる。意味。を。會。め。り。実。小。良。將。の。為。所。好。の。と。こ。と。と。若。と。  
 せん。や。以。あ。ら。う。の。功。小。より。武。能。相。模。の。守。小。任。下。徒。四。位。下。小。叙。せ。し。より。後。守。府。  
 將軍の大任小ま。昇。一。世。の。栄。小。あ。ま。と。その。多。干。請。の。せ。小。及。び。て。い。ん。ま。と。こ。ら。謀。  
 叛。小。共。一。満。仲。満。季。等。小。奏。ら。ま。て。その。身。の。仇。浪。の。名。へ。流。罪。せ。し。家。門。の。恥。辱。と。千。  
 載。不。遺。を。嗚。呼。嘆。う。ら。べ。けん。や。周。小。の。勢。多。の。格。の。と。ま。り。て。不。審。之。今。昔。抱。恨。小。  
 加。賀。の。團。猫。の。こと。載。は。是。馬。娘。と。評。す。の。關。ひ。漁。人。の。憑。ふ。より。故。ある。馬。





蛙と射殺し、さしおの悦びを孤島とて、る漢人共えり。教へて開闢とて、  
 志あり、今も折と北海の漂流の人性とあり。と載らるるが始り、秀郷は  
 馬の道不憶能るると向小輝さんて、新官におり、と附合せらるる就ふらるる  
 井澤氏が、俗説辨か目説とて、そと書と信せし書とて、そと書と信せし書とて、  
 とく致へて、取捨せすのあま、此後都て、兩將の功を、秘し徳と、授く。他不及が  
 さぬ、管あると、傳史斯のや、あると、古書小記、人とも、そのの、敢て、辨説とて、  
 志あり、び、折と、得て、新皇帝と、怒り、大内裡、小堀へ、館と、管と、百官、百司と、  
 置か、ふつて、お家の、授札と、小極、あると、然と、兩將、さし、對ひ、清康、年、時、小敵と、進、崩  
 し、その、の大札と、一、奉、お、平、定、お、及、び、り、ま、實、お、比、類、ある、熱、功、ある、賞、する、お、除、り  
 あり、その、其、行、の、如、お、放、て、り、犯、發、ま、さ、る、所、ある、也  
 但、貞、盛、更、部、ま、春、る、相、馬、小、次、部、徒、者、と、り、途、ある、と、こ、性、ある、と、り、





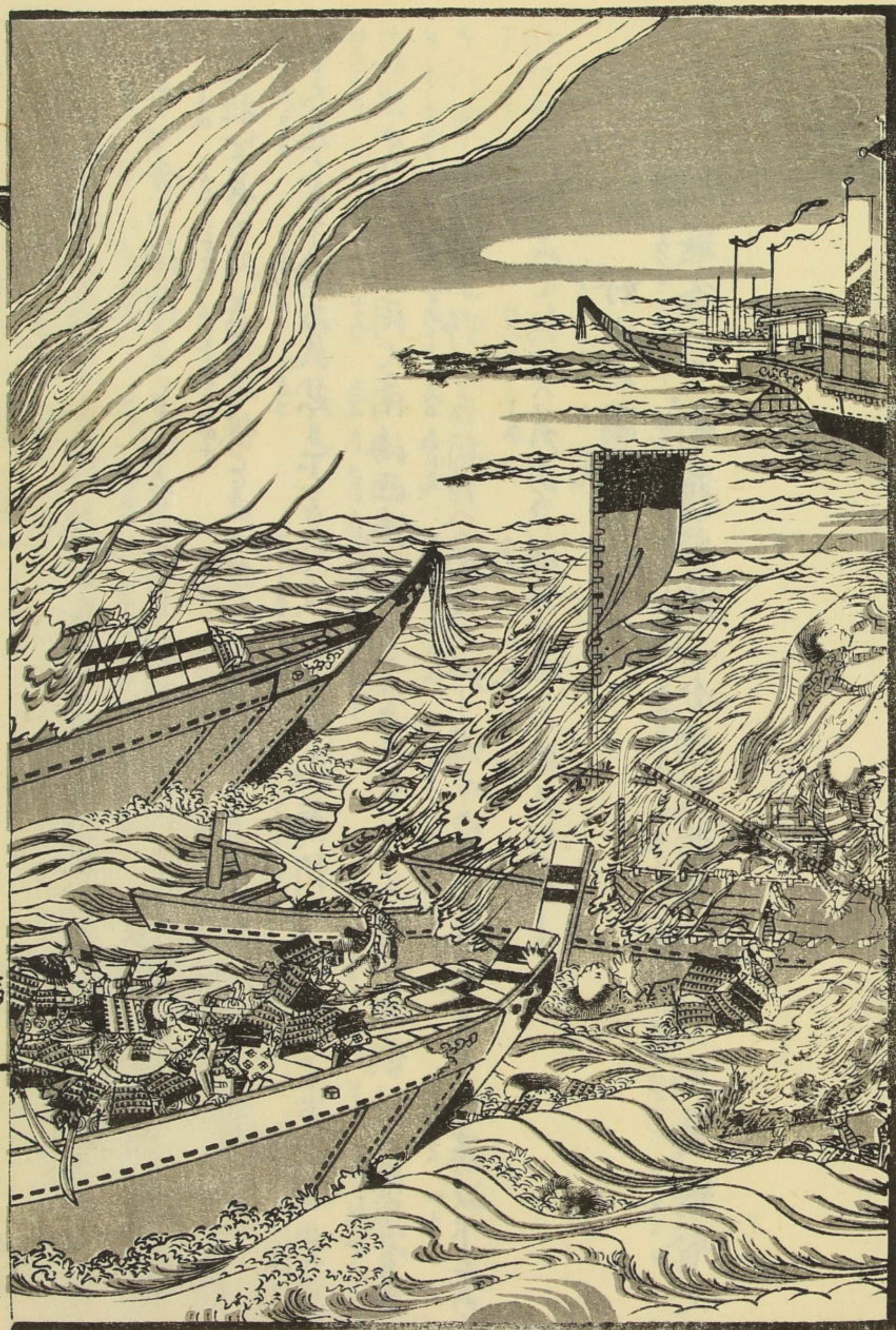


小野好古の語

義平六年小室つて伊豫藤原純友南海小礼と命を。その為人積厚なり。
 禮法不拘らば黨と聚め類と俵と。南海山陽新と小放て。劫盜とや。官お
 せ奪ひ私賊と採め。後藉姑言語小絶。故小國民とよ。為小憂。苦むるま。
 然る小今年東小の物門と牒ト合せ。伊豫小日振島小扱て。二千餘艘の戦
 艦と備へ。謀授ま。や。空えけ。則紀長谷推の子。紀淑人の智量勝。和
 歌と看。故事小通曉。故小擇。舉ら。伊豫と。彼小下向。
 海淑人元未。その器量寛仁大度。ある。放て。妄小兵と動さ。小民と懐け。
 心を。普く恤。絶。け。賊小。無頼の族。との寛念。ある。小。傾け。
 用と。帰する者。斜陣と称。する。若。二十餘人。の衆。二千五百人。忽地降。下。
 ける。あ。淑人。異後。多。集納。て。若。小。飯。と。賞。を。小。の。團。頼。小。平。定。と。上。下

あ。の。く。あ。家。と。唱。入。然。ま。ど。の。純。友。も。慈。心。熾。盛。の。僻。者。ある。ま。ど。の。仁。を。小。泥。む。こ。
 ろ。一旦。勢。以。微。と。て。遠。く。後。西。退。と。う。と。寄。と。便。宜。の。溢。者。と。集。め。後。小。の。金。
 儲。へ。出。張。る。あ。す。空。え。け。ま。た。東。門。依。倫。実。と。討。と。う。と。向。ら。ま。ど。濱。波。小。團。内。と
 力。と。合。と。と。と。戦。ひ。勝負。交。ま。り。け。ま。ど。免。小。か。賊。兵。勢。強。く。九。團。二。島。大。半。の。集。木。が
 争。小。屠。し。ぬ。ま。ど。今。の。身。た。の。故。小。あ。び。依。て。小。野。好。古。と。て。征。南。海。賊。使。の。詔。令。あ。り。
 好。古。直。小。下。向。あ。ま。の。一旦。途。路。不。遠。と。る。團。凡。再。ひ。ま。と。と。合。し。南。海。西。海。新。の。戦。
 ひ。の。つ。ま。矢。策。の。あ。ま。と。と。賊。統。法。大。る。ふ。う。の。た。右。の。の。夷。靡。け。を。干。茲。西。討。の。副。
 將。の。源。經。基。ま。満。仲。大。小。謀。策。と。揮。ひ。故。と。悩。ま。ひ。と。屢。あり。殊。小。純。友。純。素。と。見。小。
 一。人。の。英。女。と。う。て。互。小。確。執。と。生。と。り。更。小。胡。賊。の。あ。ひ。と。り。て。相。援。る。と。と。為。す。是。
 其。の。天。誅。と。象。る。あ。る。べ。か。ま。は。官。軍。的。と。好。て。満。仲。の。智。條。持。亮。純。素。と。殊。り。
 純。友。猶。も。威。と。張。て。屈。ま。る。容。の。と。え。ま。と。と。の。純。素。滅。び。大。將。副。將。一。隊。あ。る。の。て。攻。海

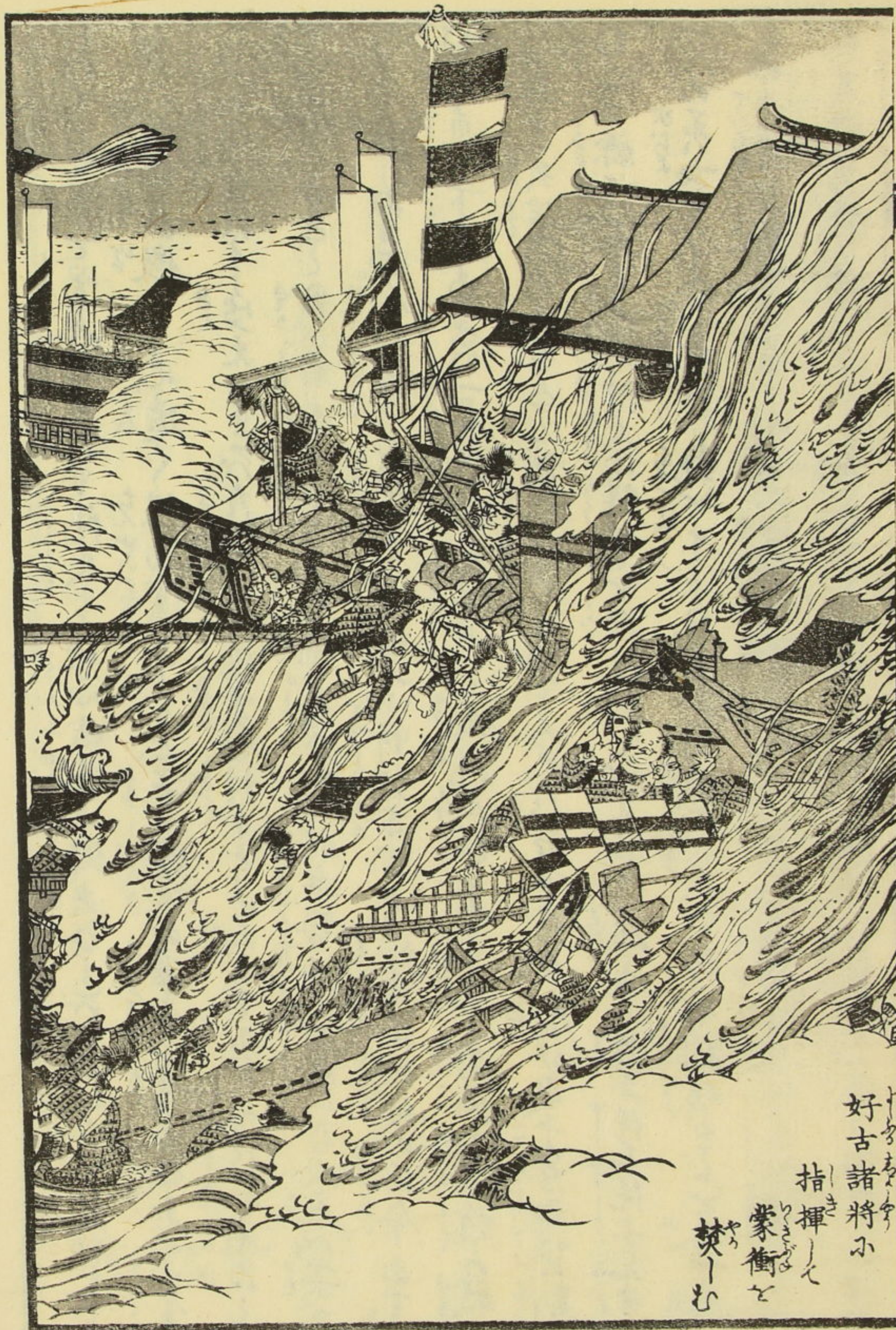




百將傳 卷之三

〇六四

洋玉堂藏板



百將傳 卷之三

君玉堂藏板

好古諸將小  
指揮  
蒙衝  
焚



程ふ今いさく力疲きて船と海上に漂へり。その籌策とどらぬ折々。慶幸春実  
 等兵と分ち海陸より是と責めて且賊船と焼討をせし純友は中園より  
 豫へ船とある処と橋遠保とを曉す。埋伏倣く急不責撃純友及び子なる  
 重太丸と由小擒み然とごと純友の陣身ね箇所不疵負さず。其夜お及び  
 息絶らる。是も小園の南海西海一時の平定をうらう。法軍凱旋の後園に  
 大將軍右少將小野好古相臣の参議を拜し。備中のふと楊りたり。經基以下  
 功の浅深ふよつて勅賞あり。猶その人の傳ふべし。

好古の圖賛みいそく  
 策應海寇急警斬獲勞將士分頓致西州清静則是總督之  
 勲

### 源經基

人皇十一代 朱雀帝の時の人天徳元年卒  
 今嘉永六世延八百九十七年成

源經基者 清和帝之孫 桃園親王

之子也 號六孫王 義平年中早知將

門之反 奏之拜副帥 而東征 又與小

野好古共征 純友 其功高也

經基王延喜七年(935)年十五で元服源姓を賜ふ。前太平記の流  
 多。武家評林系図小。天慶二年(939)とす。其非ある。清和の御喬る小  
 多。是と清和源氏とのふ。その氏一統の鼻祖あり

清和天皇  
 第六の皇子  
 貞純親王  
 桃園の官に任  
 親王とす  
 但一筆書と致す  
 瓜分の親を才  
 其の皇の之をハ  
 才の人のハ其  
 此の經基と六孫  
 王とのふとあれ  
 才六の方とる







經基の圖贊

清和瓊林一枝賜源姓分派滋旗幟咸尚白色王凡牙永奕

夫の國勢ふゆるぬく。その王の子孫不絶る。世將帥の人ありて國中威と揮  
ひ且その美名と後世遺を。清和源氏と稱するもの。そま今の世も義許と  
や。みるる王の遠孫あり。類ひあはざる繁榮あり

遠保が事蹟も大から其代の書み死せり。故に異世孫説有り。故に新小揚  
出さば看官宜しく察す。但西海の賊と叙年の後恩賞あり。その新ひり。然  
まども其事と具ふ死せり。のて祀さる。廟て是とらふ祀さる。誠者の増補あり  
んと庶幾

六孫王の家系前

- 満成 多田出羽介
- 頼光 攝津守
- 頼親 大和守
- 源賢 阿南掾
- 頼信 河内守
- 頼平 武藏守
- 頼範 左門尉
- 孝光 大和守

源満仲

時代前小今 長徳三年卒  
今嘉永六迄八百五十七年成

源満仲者六孫王之子也當高明

公之不虞而警衛禁中既而高

明左遷

よの二世のあひご其功績あり。前大平記及び其傳諸書不載。祥  
ある。今も其言を益み似し。ことそのむりのと探せん。十か二と  
出せり。但西官高明公が隠微と發見ごまの世も異門の説ある。國史  
累に按ずる。或謂高明無心實頼與満仲謀以誣告。之の後若致ふべ





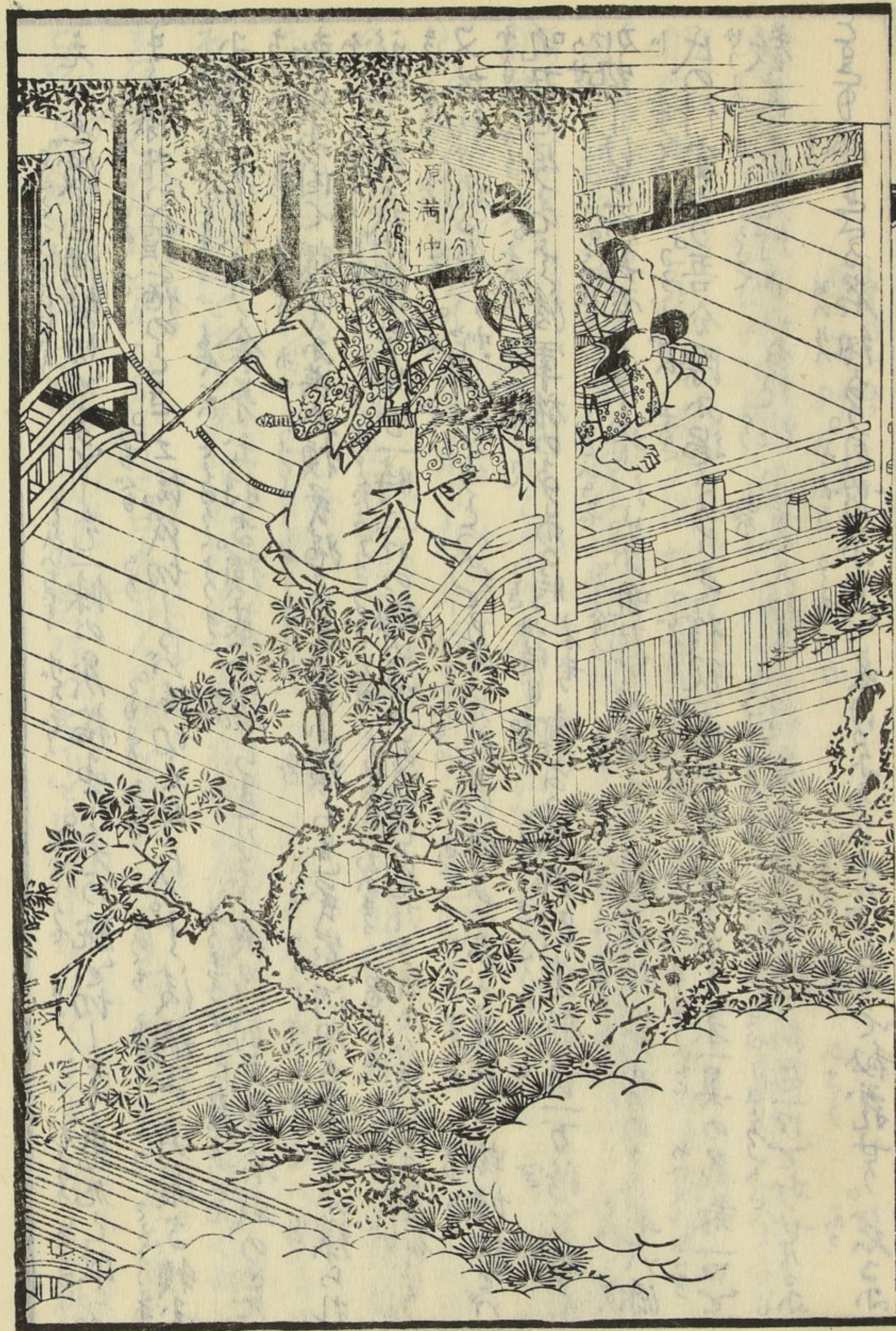




百将傳二帖卷之三

〇九

群玉堂藏板



百将傳一列詰卷之三

群玉堂藏板



この小鳥の獅子の子二分延ら。侍の二口と降るへ侍らむと云ふ。沙羅狸といひて猪  
 びら。後さ把て是と云ふ小鳥の太刀渡もる。二分縮とて獅子の子と月ト寸分  
 ありけま。侍の獅子の子長と忌ん切さるんと推量。下獅子の子とて友切と号  
 く。二口の名叙とて獅子義朝小讓らる。保元の礼出未て為義の新院へ参り義  
 朝の禁裡へ参りて。又兄弟才隔たり。平治の礼。頼朝小友友切と佩せら。軍故  
 して落人となり。塩津莊司が許小宿。友切とて墓の大炊小預けおさる。小鳥の  
 義朝討して。竟小平家の宝岳とる。かくて頼朝の世小及び大炊が許より友切と返  
 進。奥小義経進侍とて西海赴くと。教養子湛増より。先頃権現小奉納  
 廿。凡とて法小羊。經小坊。一。小義経西海小故と。藤倉。藤倉之飯。侍のこれ。櫻城  
 より入らま。大炊。三。件の太刀と箱根権現。奉納。教預と。若らま。手。後。若。我  
 五那時致。又の儲る。工。様と。討と。箱根の別當行實より。内致。小。共。え。り。を。時。致

此の傳は。一。時。件。の。太。刀。と。召。て。再。び。目。方。の。劔。と。あ。ま。り。ま。す。り。諸。人。の。小。小。渡  
 侍。その。傳。は。あ。り。の。と。も。傳。長。け。ま。ら。し。小。言。ひ。義。朝。平。治。の。礼。小。敗。ま。八。幡。本。音。薩  
 々。念。り。ら。ふ。の。間。膳。め。る。愛。の。ち。小。か。の。三。口。の。重。宝。の。あ。る。家。の。守。護。あ。る。と。名。と。更  
 む。と。屢。あ。る。之。終。小。友。切。と。号。す。故。と。以。て。保。元。小。其。父。と。作。と。兄。才。悉。く。殺。戮  
 也。と。友。切。の。名。小。秘。ま。り。神。明。の。お。ろ。所。小。あ。ら。び。名。詮。自。性。の。理。あ。り。と。示。現。あ。り  
 也。と。小。義。朝。の。初。て。感。懐。あ。せ。と。あ。り。と。ま。ま。源。家。繁。榮。の。權。燈。の。二。口。と。降。ら。ま。り。の  
 實。小。滿。仲。が。功。あ。る。と。孫。の。守。護。あ。ま。り。朝。廷。小。比。と。三。種。の。神。器。唐。土。小。比。せ。の  
 鼎。と。の。へ。ま。ま。宝。あ。る。と。り。得。ま。り。の。必。由。を。失。あ。る。人。の。必。磨。る。と。小。滿。仲。の。人。あ。る  
 也。神。の。化。現。と。あ。り。の。へ。ま。ま。ん。その。中。小。の。奇。奇。妙。あ。る。の。か。の。多。田。の。珠。の。死。立。あ。り。滿  
 仲。佐。右。小。左。藤。の。七。日。七。夜。の。祈。念。あ。ら。び。その。滿。仲。時。小。及。び。て。松。蔭。の。波。に。う  
 め。る。月。より。日。流。く。と。の。む。後。よ。の。神。と。話。し。の。眼。と。塞。ご。命。掌。あ。る。す。干。お。神。殿



の扉と開き。自發する老翁立ち出ぬ。此の示現あり。満仲大少教喜の示現  
 お仕之上義の嫡夫とち番ひ空お対ひて放あふ。その矢多田の莊の池に墮て九  
 頭蛇と射斃す。その水涸て陸地となる。岡てつみ珠と採り多田の珠とぞ異りり。  
 是野史小録に碑お傳へ人のよく知る所あるべし。大畧と摘てん記まこと。満仲が  
 武勇と傑く化を没け附會の説は但し正傳の君と心の分別及ぶまこと也。  
 今て以て考ふまは珠と一説あり。一箭と九頭の大蛇と池中射斃すこと。  
 神助といふも怪しき事。脱小神代香盡鳴奇稲田娘と駈らん。八岐大蛇  
 と斬るまは。謀と酒お碑し。其虚お衆人利田の彼河代おとやあり。  
 一箭おと射角べの尊か。老翁おらん。あて以て推量はべし。満仲武勇小尉  
 たりとも。のこ此尊お及ぶ。三人皇の代お至す。月お武吉東心。騰吹の山神大  
 蛇お化し。路と塞と在る。踏おとそ毒氣お中ら。心神と悟り。あひ竟お結

袋の 櫻野お薺下。人先渡りて斯の也。看官軍多取捨ま。まこと天延元年おあ  
 ず。系所大少法盜案を。武の家お礼入。脱お一箇満仲が館掃が小詰栲腰に押  
 入り。入て礼妨。放火して資財と竊む。その黨凡て三百人とぞ。當下満仲少も發ぐ。凡  
 百矢一腰お礼と是と射る。人孫お賊等大お狼狽して逃散。うるといふのこ也  
 あらん。然るお今昔お語る。満仲が敏お幼盜い。ま。天徳四年五月十日 天徳四  
 年五月十日 満仲おさあせ一人射ふ。廿てん。今稿弘重といかりのこ  
 満仲弘重小門類とて。申務郷親王第二男親賢及官内元中長良村土  
 佐権守蕃基等。この月敷のうと言ひ。お於て檢非違使右衛門志文明。参内  
 志を奏向する。小申務卿の家人ま。てん。件の子。今曉親王の家お今月敷  
 紀近傳中は良村等の家おあり。因て緯の由と親お不言。親王おさ。めてい。て  
 男親賢日頃重く崩病と。なら。此家内お在り。親お。平安の所と候て。あ







